

病院機能にかかる自己評価調査 自己評価が高い部署からの取組事例の紹介

病院機能モニター委員会 委員長 紀野修一

本年2月に本委員会により実施した、自己評価調査においては、各部署とも多忙の中、調査にご協力いた

だきありがとうございました。

前年同様、自己評価調査で高い評価としている事項が多い部署に、その部署の取組等を病院ニュースで紹介してもらうことといたしました。

他の部署においては参考にしていただき、より一層の機能向上を検討いただければと思います。

耳鼻咽喉科 における診療の質向上に向けた取り組み

医療はその質の向上はもちろんのこと、多くの人々に利益をもたらすためには新しい知見・技術を患者さんに平等に提供するために、標準化されなければなりません。それに加えて大学病院では、学生や研修医への教育も重要です。我々耳鼻咽喉科医が取り扱う領域は、耳鼻咽喉科・頭頸部外科・気管食道科・神経耳科・アレルギー科など非常に幅広く、耳鼻咽喉科日常診療において頭頸部癌はもとより、頻繁に遭遇する中耳炎や鼻アレルギーにおいてもその診療は個々の医師・施設によってまちまちであるのが現状です。そこで我々は、当科でおこなっている診断・治療法を編集した「診療マニュアル」を独自に作成し、活用しています(写真1)。このマニュアルは、学生実習マニュアル、研修医マニュアルに加えて、診療ガイドラインや治療指針・取扱規約など専門医でも日常診療に役立つような内容を網羅しております。このマニュアルを、関連病院を含めた全医局員や研修医・実習学生に配布し情報を共有することによって、若手の教育目的だけでなく、患者さんへ提供する医療の質が標準化され、更にはこのマニュアルをもとに

集積されたデータを解析することでよりバージョンアップしたマニュアルができることを狙っています。このマニュアルは原測現教授の就任とともに作成され、現在まで2回の改訂をおこなっています。

また近年の医療情報の膨大化・多様化に対応する手段として、我が教室では1年前よりiPadを導入しました。先に紹介した診療マニュアルに加えて、耳鼻咽喉科専門書・文献・講義スライド・手術ビデオなどを盛り込み、全医局員と実習学生に配布することで日常の外来や病棟業務・手術・教育などに積極的に活用しています。さらに最近では、他施設より紹介された症例の画像を取り込んでカンファレンスなどに利用したり、論文抄読会や学会発表の予演会をペーパーレスにしたり、教室や学会の予定表を共有するなどして、活用の幅をさらに広げているところです。



診療マニュアル



抄読会風景